

人口減少に負けない

雫石で岩手・葛巻3町サミット

地域づくりの道探る

地域創生自治体サミット2016(雫石町、岩手町、葛巻町主催)は6日、雫石町上曾根田の町中央公民館野菊ホールで開かれた。昨年葛巻町で開催した「消滅してたまるか自治体サミット」に続く開催。各町の振興施策や地域に根差した町民の取り組みの報告を通して「消滅」の懸念を振り払い、人口減少時代に対応した地域の「創生」への決意を新たにした。



3町の町民や自治体関係者約700人が参加した。「地域づくり活動実践者から見たマチヂカラ」と題したパネルディスカッションで、民部田幾夫岩手町長、鈴木重男葛巻町長、

鈴木重男葛巻町長、深谷政光雫石町長、民部田幾夫岩手町長、パネルディスカッションの参加者(右奥)と共に地域創生への決意を確かめ合う(手前右から)鈴木重男葛巻町長、深谷政光雫石町長、民部田幾夫岩手町長

深谷政光雫石町長が各町の「地方創生」に向けた施策をアピール。地元出身で岩手町観光ボランティアガイドの会の事務局長山口誠さん、東京都出身で葛巻町のくずまき乳製品加工研究会会長の中村和子さん、大阪府出身で雫石町の流工房社長の鈴木勝さんが、それぞれの経験を踏まえた地方の可能性や課題を論じた。

山口さんは「地域にあるものの見方を変えることで発見や感動が生まれ、観光資源や魅力的な商品などの経済効果にもつながっていく」と視点を転換を提案。中村さんは「山村

で女性の力は埋もれがち。地域の潜在力を引き出すきっかけがあれば町の将来は変わる」と力を込め、鈴木さんは「町の人口が少なくても、モノや人の魅力で広域から集客できると変化を恐れずニーズを追求することで地方産業の可能性は広がる」と語った。

議論を踏まえ、3町長が地域創生への決意を表明し、手を携えて地域づくりに取り組むことを誓った。

基調講演した日本創成会議座長の増田寛也前知事は「首都圏では得難い豊かな環境と共助の精神を生かし、地

域全体で次代を担う子どもを育てていくことが必要だ」と人口減少対策の方向性を強調した。

